

こえに だして よみましよう。



かには、そこで、やまへ やって いきました。やまには  
たぬきが ひるねを して いました。

「もしもし、たぬきさん。」

たぬきは めを さまして、

「なんだ。」

と いました。



「どこやですが ごようは ありませんか。」

たぬきは、いたずらが すきな けもの ですから、よくない  
ことを かんがえました。

「よろしい、かって もらおう。ところで、ひとつ やくそく  
してくれなきや いけない。というのは、わたしの あとで、  
わたしの おとうさんの けも かって もらいたい のさ。」

「へい、おやすい ことです。」

そこで、かにの うでを ふるう ときが きました。

ちよっきん、ちよっきん、ちよっきん。

⑳ (23) に つづく ( )

にいみなんきち かに  
新美南吉「蟹のしょうばい」より